

# 橋梁補修調査設計業務 特記仕様書

## 1 業務目的

現況調査及び補修設計は、現況の状態を把握し、最適な補修又は補強工法を決定したうえで、工事に必要な詳細構造を設計し、経済的かつ合理的に工事の費用を予定するための資料を作成することを目的とする。

## 2 業務内容

### 1) 事前調査

現地踏査及び基本計画の作成を行うものである。

#### ① 現地踏査

調査の基本計画を作成するための現地を踏査するもので、形状調査、外観変状調査に必要な機械及び材料の搬入出経路、仮設の要否及び規模、交通量、交通規制、橋梁の変状程度、その他調査を実施するために必要な現場の概況を調査記録（写真撮影を含む）する作業。

#### ② 基本計画

既存の橋梁データの収集及び現地踏査に基づき現況の設計諸元を整理のうえ、作業方法・作業手続等を検討し、業務の計画書を作成する作業。なお、橋梁データは発注者から貸与を受けること。

### 2) 形状調査

主要構造寸法を測定し、現橋の構造図（側面図、平面図、及び附帯設備等）を作成する。作成した図面は、報告書に添付するものとする。

### 3) 外観変状調査

各構造部材の外観変状を調査記録（写真撮影を含む）し、報告書に添付するものである。また、各種試験を行う場合はその結果についてとりまとめ、報告書に添付する。

~~なお、調査結果に基づく今後の補修方針の提案を含む。~~

添付資料の構成は下記の通りとする。

- ① 一般事項
- ② 構造概要
- ③ 変状部分の種類及び程度、説明事項、特記事項
- ④ 変状図
- ⑤ 各種試験結果
- ⑥ クラック状況図（クラック注入をする場合は、数量の把握まで行う）
- ⑦ まとめ（原因とその対策、補修方針等）

### 4) 補修設計（構造計算を伴わない）

調査結果に基づき補修設計を行うもので、構造計算を伴わない補修設計に適用する。補修工法の選定、図化、数量計算、照査、報告書作成までを含む。（また、特殊な工事についての工事特記仕様書の作成を含む。）

①補修工法の選定（工法比較）

②下部工補修（※施工に必要な仮設工の設計及び関係機関に関する資料作成を含む）

5）打合せ協議

打合せ協議は下記を標準とする。中間打合せは必要な回数を実施する。

①業務着手時

②中間打合せ

③成果品納入時

6）報告書作成

設計業務の成果として、設計業務等共通仕様書（共通編）〔令和3年10月1日版〕3-2-11に準じて作成するものとする。なお、下記の項目について解説しとりまとめて記載した設計概要書を作成するものとする。

工法の比較検討にあたっては、新技術等の比較検討を行い、費用の縮減や事業の効率化などに取り組むとともに、新技術の活用検討の結果により、新技術等を活用する場合には、従来技術からの縮減額や縮減日数を算出する。

① 現橋の設計諸元

② 外観変状調査及び各種試験結果

③ 工法選定の経緯及び選定理由（工法比較表）

④ 構造各部の検討内容及び問題点、特に考慮した事項

⑤ 主要材料、工事数量の総括

⑥ 施工段階での注意事項・検討事項

⑦ 工事特記仕様書（〇〇工事、〇〇工事）

## 測量業務 特記仕様書

1 業務目的

測量業務は、橋梁補修工事に伴う河川法申請書の基礎データとするために実施するものである。

2 業務内容

（1）作業計画

作業計画は、路線測量に必要な状況を把握し、路線測量の細分ごと作成する。（作業内容の把握、資料の収集、作業方法、作業工程、作業班編成、使用機器、安全管理）

（2）中心線測量

主要点及び中心点を現地に設置し、線形地形図を作成する。

（3）縦断測量

中心杭等の標高を定め、縦断面図を作成する。測点間隔は20mを基本とするが、変化点についても追加のうえ測量すること。

（4）横断測量

中心杭等を基準にして地形の変化点等の距離及び地盤高を定め、横断面図を作成

する。測量幅員は概ね 15m、測点間隔は 20mを基本とするが、変化点についても追加のうえ測量すること。既設構造物の位置・高さ・幅等には特に注意すること。